

平成 25 年度土曜日の公開授業研究事業実施報告書（中間まとめ）

学校番号	42	学校名	県立静岡東高等学校
対象課程・学科・学年		全日制の課程・普通科・全学年	

1 研究のねらい

平成 23～24 年度の 2 年間実施した土曜公開授業は、平日放課後のゆとり確保、学力向上等の成果をもたらしたが、生徒や職員には負担感が少なからずあった。これを軽減し、さらに効果的なものにするにより「授業→部活動→家庭学習」の生活リズムに基づいた質の高い文武両道を実現する。

2 研究の概要

(1) 生徒の負担に配慮した実施日の適切な設定

生徒の公欠が少ない高体連主催大会非開催日（以下（非開催日）という。）に公開授業を設定し、かつ 2 週連続することがないようにする。さらに、校外模試の実施は、土曜授業と同じ週に重なることをなるべく避けて計画する。また、公欠できる試合を原則として、高体連及び高文連主催の公式戦に限るようにする。

(2) 土曜授業の効果的な実施

土曜日は時間割の変更がしやすいようにクラス単独の授業を多くして、生徒引率等の出張のために自習となる授業を極力減らす。

(3) 職員の勤務時間管理に配慮した校内体制

土曜勤務の半日振替を取りやすくするために、すべての教員について 2 週に 1 日は授業が午前中のみ、または午後のみの日を設定する。

3 実施日程及び内容

(1) 実施日（振替日）計 16 回

4 月 13 日（5 月 7 日）	※10 月 5 日（10 月 9 日）
4 月 27 日（5 月 21 日）	10 月 19 日（2 年 11 / 26、他 12 / 2）
5 月 11 日（5 月 22 日）	11 月 2 日（2 年 11 / 27、他 12 / 3）
6 月 8 日（7 月 2 日）	11 月 16 日（2 年 11 / 28、他 12 / 4）
6 月 22 日（7 月 3 日）	12 月 14 日（2 年 11 / 29、他 12 / 5）
7 月 13 日（7 月 4 日）	1 月 11 日（2 月 27 日）
※9 月 7 日（10 月 7 日）	1 月 25 日（2 月 28 日）
※9 月 21 日（10 月 8 日）	2 月 8 日（3 月 3 日）

ただし、2 月 8 日は、暴風警報発令のため休校としたため、15 回の実施となった。すべてを公開授業としたが、中学生を学校単位で受け入れたのは、6 月 8 日～1 月 25 日の 12 回である。

なお、上記※の 3 回は、部活動見学の時間を設けた。

## (2) 実施時間と内容

	【通常】	(本校生徒)	(見学者)
	8 : 35	登校	
1 限	8 : 35～9 : 40	授業	受付・学校説明
2 限	9 : 50～10 : 55	授業	授業見学
3 限	11 : 05～12 : 10	授業	授業見学

### 【9/7, 9/21, 10/5 の3回】

	8 : 35	登校	
1 限	8 : 35～9 : 25	授業	受付・学校説明
2 限	9 : 35～10 : 25	授業	授業見学
3 限	10 : 35～12 : 10	部活動	部活動見学

## 4 実施上留意した事項

- ・公開授業当日の朝の清掃、受付・誘導を丁寧に行うなど、学校全体で参加者を迎える姿勢を大切にした。
- ・職員や生徒、中学生の負担を考慮し、部活動公開も含めて、午前中に終了できるように時間割を工夫した。

## 5 研究の成果（生徒・教員アンケート結果より）

### (1) 「生徒の負担に配慮した実施日の適切な設定」について

- ・実施日の設定が生徒の負担に配慮されているかどうかについては、生徒の56%、教員の68%が認めている。2週連続を皆無にしたり、授業と模試が土日に続くことを最小限にしたことが、少しは負担の減少につながったと思われる。

### (2) 「土曜授業の効果的な実施」について

- ・部活動等を行うための「平日放課後の時間のゆとりの保障」や「授業→部活動→家庭学習の生活リズムの保持」については、生徒・教員とも80%以上がその意義を認めている。
- ・生徒の78%、教員の84%が、土曜授業そのものが効果的に行われていると回答している。
- ・時間割配慮の結果、出張時に授業の振替をして自習になることを回避できた教員は72%であった。
- ・学力向上への効果について

下の表は本校生徒の進研模試の英数国3教科平均偏差値の推移である。

入学年度	1年7・11月平均	2年7・11月平均	1年→2年増減	3年7月	2年→3年増減
2007	55.6	54.2	-1.4	52.2	-2.0
2008	55.7	55.7	0.0	53.9	-1.8
2009	57.2	54.2	-3.0	53.4	-0.8
2010	59.8	56.8	-3.0	54.1	-2.7
2011	56.9	56.7	-0.2	54.9	-1.8
2012	56.9	56.6	-0.3		
2013	55.4				

本校では、2011 年度から土曜授業を実施している。1 年生から 2 年生の推移を見ると、2010 年度以前の入学生では平均して 1.85 ポイントの減少であるのに対し、2011 年度以後の入学生では、平均して 0.25 ポイントの減少にとどまっている。このことは、土曜授業が学力維持に良い影響を与えていると見ることもできるのではないだろうか。

(3) 「職員の勤務時間管理に配慮した校内体制のあり方」について

- ・時間割作成上、すべての教員について 2 週間に 1 日は午前中又は午後に授業を入れておらず、各土曜授業日ごとに職員は自分で都合の良い日を選び、振替を取る日を決めている。その振替日は職員自身がコンピューターネットワークのファイルに入力する。それによると、振替取得率は 88.6%(2 月末現在)である。管理職はそのファイルをチェックして勤務時間管理を行っているが、振替日のはずなのに出勤している職員は皆無ではない。職員アンケートでは、実際に振替をほぼ取得できていると回答した職員は 73%であった。

6 実施上の課題及び解決策等

- ・実施日を高体連主催大会非開催日に設定したが、非開催日に大会を開催する競技団体が多く、公欠する生徒がかなり多くなってしまった。解決策としては、公欠が多くなる時期(5・11 月)の土曜授業を月 1 回とする。
- ・公欠の多い部活動についての分析

①テニス

試合数そのものが多い。1 つの大会だけでもシングルス、ダブルス、団体と 3 部門あり、さらに登録選手が多いため 1 部門に数日を費やす。天候にも左右され、予定通り進まないため、予備日も必要である。非開催日も何日か使わざるを得ない。

②卓球

インターハイ県予選の成績で選抜された東海大会規模の大会が多い。これらは高体連主催ではない(卓球協会主催)ので、非開催日の実施が多い。

③弓道

剣道・柔道と試合会場(県武道場)が競合するため、非開催日にも試合を組まざるを得ない。また、県弓道連盟主催の大きな大会もあり、それは非開催日に実施されやすい。

④百人一首

文化部であるため高体連の非開催日とは無関係に試合日程が組まれる。今年度は、非開催日に多くの試合が組まれた。

- ・3 年生については、2 学期に模試が連続するため、土曜授業と合わせると 10 月は毎週土曜日登校になってしまった。アンケートでも 3 年生が特に疲労が蓄積するという回答であった。解決策としては、10 月の土曜授業を月 1 回とする。
- ・公欠した生徒の授業フォローが十分できなかった。土曜授業日ごとに、各教員で授業内容のフォローを行うようお願いしたが、アンケート結果を見ると、十分とは言えない。解決策としては、学校の施策として、月曜日の放課後にフォロータイムを設定し、事前にフォローを希望した生徒が、決められた場所で授業担当者に質問できる場を設ける。

7 考察

- ・職員と生徒の負担感については、土曜授業を実施する以上、ある程度はやむを得ないのではないかと。土曜授業を実施することの効果も多く認められるので、負担感を少し

でも減らしていく努力と工夫が大切ではないかを感じる。

- 公欠を少なくすることが重要課題であるが、この問題は高体連と高文連に所属する団体が一致協力して、公式試合が行われない土曜日をどれだけ設定できるかに懸かっていると思う。公欠授業のフォローについては、来年度新たなシステムを作り、学校として無理のない範囲で取り組む予定である。その実効性についてはアンケートで検証する。